参考資料２

いいな３村調整会議議事録

第１回　いいな３村調整会議
（平成 27 年９月 29 日 11:00～12:30）
第２回　いいな３村調整会議
（平成 28 年１月 22 日 15:00～17:30）
第３回　いいな３村調整会議
（平成 28 年３月８日 9:00～12:00）

第１回
いいな３村調整会議
議事録

平成２７年度 農山漁村交流拠点整備事業
第１回 いいな３村会議　議事要旨

１．日　時：平成２７年９月２９日（火）１１:00～１２:30
２．会　場：運天港フェリーターミナル１階
３．出席者：
＜いいな３村＞
・伊平屋村 総合推進室 上原主事、叶氏
・伊平屋島観光協会 金城事務局長
・伊是名村 商工観光課 東江係長
　　農林水産課 名嘉主事
・一般社団法人いぜな島観光協会 上間次長
・一般社団法人今帰仁村観光協会 又吉事務局長、島袋氏
＜沖縄県＞
・沖縄県 農林水産部 村づくり計画課 大嶺班長、崎間主任技師
＜受託事業者＞
・株式会社オリエンタルコンサルタンツ 小川、大城
・株式会社アンカーリングジャパン 中村、大島

４．議事要旨
（１）体験交流プログラム実証について
・事業の推進役としては、自分が中心となり、事務作業を島袋氏が担当する。実施事項は多いが、取り組むべき内容は明確であり、鋭意推進したい。（又吉事務局長）

① ターゲットについて
・事前に、ツアー催行予定の株式会社近畿日本ツーリスト沖縄(以下「KNT」)と意見交換を行い、次年度以降もビジネスとして継続できるかという視点も踏まえアドバイスを頂いた。フリースクールに通うお子さんをもつ家族をターゲットにすることについては、旅行自体へ連れ出すことに難しさがあると指摘を受けた。そのため、実証のターゲットの再検討を行いたい。（事務局）
・“家族の学校”をテーマとした商品づくりに向けて、そのターゲットを明確にする目的からフリースクールに的を絞ったが、事務局からの説明のとおり、別のターゲットを設定したい。案として、以前に民泊を実施した学校に対してプロモーションを行い、民泊体験した小学生に家族と来てもらうことを提案してはどうかと考えている。（又吉事務局長）
・KNT が催行した修学旅行の学校のみが対象となるのか。（事務局）
・修学旅行の担当旅行会社は変わることもある。旅行会社ではなく、３村に来てくれた学校を対象にすることを考えている。旅行会社にとっても営業機会になるので良いのではないか。（又吉事務局長）
・沖縄離島体験交流促進事業は沖縄本島の小学校５、６年生が参加している。同事業の参加学校も

視野に入れ、県内の小学校を対象にすることも案として考えられる。（事務局）

・伊平屋村においては、長野県の高校生１件と東京の小学生１件の受け入れを実施しているが、修学旅行の受け入れはこれからの取組となる。県外の学校については候補を挙げることが難しい。（金城氏）

・モニターツアーは１５名、５家庭程度なので、大人数の呼びかけをする必要性はない。交流体験プログラムの提案を目的としていることから、例えば今帰仁村へ来てくれた学校を対象とした場合においても、今帰仁村を入り口として他の２村へ来てもらうきっかけとなる。（又吉事務局長）

・今年度の民泊受け入れ校数について、伊是名村は５校（昨年度３校）。伊平屋村は４校（昨年度３校）であった。伊是名村は受け入れ人数が 100 名を超える。伊平屋村は１００名弱である。（上間次長、金城氏）

・以前に民泊を体験した小学生が、翌年に家族で訪れてくれている事例が実際にある。（金城氏）

・家族を連れてきてくれる小学生や家族をターゲットにしたプログラム(旅行商品)が開発できると、家族で訪れる際にプランが選びやすくなり、いいな３村への家族旅行を促進できるメリットがある。旅行会社にも、民泊体験を実施した学校をターゲットとする案で提案したい。（事務局）

② 実施時期について

・10、11 月における分散実施を想定し、レンタカーを使用して移動してもらうことを考えている。民泊の受け入れ状況を考慮して、10、11 月の実施は可能だろうか。希望する時期はあるか。（事務局）

・那覇空港からの「やんばる急行バス」は使用しやすいと好評である。時間にゆとりのあるプランであれば楽しめるのではないか。（金城氏）

・やんばる急行バスは所要時間が３時間程度と時間的に厳しい可能性が高い。貸切バスを使用したプランは、修学旅行時期はバスが不足があり厳しい状況が予想される。（事務局）

・伊是名村における民泊の受け入れ状況は、10 月中旬～12 月頃まで繁忙期である。（上間次長）

・伊平屋村においては、10 月に喜名小学校の民泊受け入れが予定されている。また、10 月中旬以降は「ツール・ド・おきなわ」や、「離島フェア」、「いいな運天港いちゃり場まつり」などが開催予定であり、11 月下旬以降に余裕が出てくる。（金城氏、上原主事、叶氏）

・10、11 月頃に体験できるプログラムはあるだろうか。（又吉事務局長）

・11 月前半までなら稲刈りもできる。（金城氏）

・これからの準備を考慮すると 11 月からの実施が現実的である。11 月から 1、2 家族を２回程度受け入れるプランを想定しており、大きな負担にはならないかと思う。（又吉事務局長）

・受け入れ側の負担も考慮するところだが、イベント開催時期のほうが参加者は楽しいのではないか。（大嶺班長）

・民泊受け入れ事務局がイベントに忙しく、参加者に対応することが難しい。（金城氏）

・フェリーの欠航が少ない 11 月辺りを対象に実施できれば理想的である。（事務局）

③ 勉強会の実施について

・通常の民泊受け入れと異なり、親である大人も対象とした体験プログラムの検討も必要であり、難易度の高さが懸念される。（事務局）
・県外の人はわざわざ沖縄に来て「稲刈り体験」では満足してもらえないのではないか。（金城氏）
・夜間の大潮におけるイノー歩きはどうだろうか。（島袋氏）
・商品化を考えると、夜間のイノー歩きは制約条件が多く難易度は高い。
・今帰仁村観光協会にて体験プログラム及び行程案を作成する。この事務局案の提示と同時期に勉強会も実施したい。10 月中には実施したい考えである。（以上、又吉事務局長）
・モニターツアー実施の事前の勉強会の開催場所は伊平屋村もしくは伊是名村を想定している。どちらで実施することが望ましいか意見を伺いたい。（事務局）
・10 月実施なので、会場準備などを考慮して伊平屋村にお願いしたい。（上間次長）
・沖縄離島体験交流促進事業のコーディネータに参加する予定がある。20 日以降であれば対応可能である。ただし、ムーンライトマラソンが 10 月 23、24 日に開催予定であるため、その直前は候補から外したい。（金城氏）
・伊是名村は、民泊の受け入れのため 10 月 18～28 日の参加が難しい。13、14、16、23 日は参加可能である。（上間次長）
・10 月 13、14 日を候補として、伊平屋村にて開催を予定する。事務局にて講師の調整をお願いしたい。（又吉事務局長）

（2）コミュニティビジネスについて

① ブレンド泡盛の商品開発について

・ブレンド泡盛から先行して進めることにしている。
・本日、明日において、伊平屋酒造及び伊是名酒造へ直接説明を行うことを予定している。ぜひ両村の関係者の皆さんへ同席いただきたい。
・開発商品の試飲、アンケートについては、「いいな運天港いちゃり場まつり」のほか、「離島フェア」においても実施したい考えである。（以上、又吉事務局長）

② 商品開発のストーリー展開について

・単に特産品の泡盛をブレンドすることを目的とするのではなく、ブレンドすることに意味合いやストーリーを持たせて顧客に訴求できるよう配慮して欲しい。例えば、３村の絆や家族の絆をテーマとして、「３村が一つになって泡盛をブレンドし醸成することにより、子供の成長を願う」というような、３村における交流体験における“ブレンドのストーリー”を組み立ててほしい。
・「おむすび」についても、温かみのある３村を感じさせるブランドとして位置付けてほしい。単なる地域の農産物の組み合わせや、商品ありきではなく、「おむすび」をつくる段階での３村の繋がりやストーリーを検討いただきたい。
・既存の流通ルートがある中で、農作物の提供へ協力してくれる農家の皆さんの参加理由となる意義を、ストーリーを検討する中に見出してほしい。（以上、大嶺班長）

・商品の裏にあるストーリーや商品としてのその展開方法について、勉強会で協議したい。（又吉事務局長）

③ 勉強会の実施について

・コミュニティビジネスの勉強会に招聘予定の中村統括マネージャーは、津堅島のにんじんロールの開発に尽力された実績がある。一般社団法人プロモーションうるまを設立し、地域活性化事業の一環として、地域の商品のもつブランド力を生かした商品開発・販売を手掛けている。また、伊計島の黄金芋を活用した商品づくりにも貢献している。農地の活用、価値向上に向けて活動するとともに、観光と農村の活性という両面から取組を進めており、組織的なアドバイスも期待できる。（事務局）

・モニターツアーの勉強会と連続して実施することとし、10 月 13、14 日を候補をする。（事務局）

（３）広域連携組織について

・広域連携に対してどのような機能を持たせるのか、議論したい。

・農山漁村における交流体験ということから、地域の農業、漁業との関わりが重要である。広がりのある組織形態とできることが望ましい。（以上、事務局）

・県では、「沖縄県グリーンツーリズム協議会」の設立を検討している。現在は地域を中心に体験交流を進めているが、怪我などのリスクや、食事面の問題を抱えているのが現状である。広域的な横の広がりを繋げることで、受け入れ環境の質的向上を図り、これらの課題を軽減する考えである。

・また、“慣れ”や“受け入れ疲れ”を理由に、民泊体験する小学生及び受け入れ農家相互にとって、感動などの効果が薄れてしまう傾向がある。さらに民泊体験が観光面に終始してしまい、交流体験に対する意義が薄れてしまっていると感じる。

・しかし、広域的な横のネットワークを強め、受け入れ環境を強化することで、新たな感動、交流体験の意義が生まれるのではないだろうか。地域が一体となった絆が参加者にも伝わり、様々な感動につながると考えている。

・そのためにも、広域連携の絆をまず地域が実感することで、参加者にも絆が伝わるのではないか。広域連携組織を作る際のテーマとして以上のことも意識してほしい。（以上、大嶺班長）

・観光客数を増やしていくなかで、他の地域にはない特性をアピールしていきたい。今帰仁港やいいな３村の取組を通じて、伊平屋村をまずは県内外の人たちに知ってもらいたい。（上原主事）

・地域連携の必要性については各地域がそれぞれに感じているところだと思う。北部広域市町村圏事務組合でも、広域連携をテーマにした取組が出てきている。文化・歴史体験ツアーやアウトドアツーリズム、本部・今帰仁地域におけるストーリーづくりなど、様々な取組が進んできている。

・このような現状を踏まえ、今帰仁村観光協会では本部町観光協会とともに、広域連携事業の情報共有ができる機会の創出を検討している。実際には、沖縄観光コンベンションビューローが主催している地域観光協会会長会議、事務局長会議の分科会として、広域事業の勉強会の実施を打診しており、実施できる見込みである。（以上、又吉事務局長）

・拠点組織が持続性をもつためにも、第一次産業の現場の人たちにも拠点づくりの意義や必要性を

感じてもらい、感動・交流できる環境をつくることが本事業の最も重要な目的であると考えている。（大嶺班長）

- 観光に特化せず、多角的な取組を広域的に考えていく、広がりのある会について考えたい。10月頃に開催したいと考えている。（又吉事務局長）
- ビジネスの視点からも、定住人口を増やすための環境づくりの一環として拠点づくりを進めていければと考えている。地域が豊かさを実感できるよう、県としても後押ししたい。（大嶺班長）
- 観光地域づくりの組織の要件としては、マーケティング、マネジメントの両面の機能が存在する。マーケティングは広域的なアプローチが有効だと考えられる。マネジメント地域の魅力づくりや受け入れ農家の育成など、その地域一つひとつにおいて実施していくことが重要だといえる。機能面から地域のまとまりを捉えることも重要である。（事務局）

（４）今後のスケジュールについて

- 体験交流プログラムやコミュニティビジネスについては、今帰仁村観光協会を中心として進めていただきたい。組織づくり全体については、他のスケジュールも踏まえ事務局で作成して提示する。（事務局）

（５）その他

- 花と食のフェスティバルにおいて、地域の交流活動を促進する目的から、グリーンツーリズムの実施団体へテント２張りの提供を実施する。ぜひ本イベントを、特産品の販売や体験プログラムの提供など、地域の情報発信、PR の場として活用してほしい。（崎間主任技師）
- 受け入れ側とグリーンツーリズムに関心のある人たちとが出会うきっかけの場所となればと思う。県民の参加が中心で来場者数は８万人を超えてきている。地元の人たちに対しても PR して、グリーンツーリズム体験への参加を促進できればと思う。
- 子どもプロジェクトにおいても、農山漁村での交流を通じて子供たちの情操教育が図られている。親御さんに対しても、取組を PR できるよい機会になると考える。（以上、大嶺班長）

（以　上）

第２回
いいな３村調整会議
議事録

平成２７年度 農山漁村交流拠点整備事業
いいな３村 第２回調整会議 議事要旨

１．日　時：平成２８年1月２２日（金）１５：００～１７：３０
２．会　場：今帰仁村　あいあいファーム（セミナールーム）
３．出席者：
＜グリーン・ツーリズム推進団体＞
・伊平屋村 総合推進室　叶 観光コーディネーター
　　農林水産課　前里主事補、宮城氏
・伊平屋島観光協会　金城事務局長、西銘主任
・伊是名村　農林水産課　名嘉主事
　　商工観光課　東江課長補佐
・一般社団法人今帰仁村観光協会　又吉事務局長
　フードアナリスト・プロモーション　吉崎氏
＜沖縄県＞
・沖縄県 農林水産部 村づくり計画課　大嶺班長、崎間主任技師、金城氏
＜受託事業者＞
・株式会社オリエンタルコンサルタンツ　小川、大城
・株式会社アンカーリングジャパン　大島

４．議事要旨
（１）コミュニティビジネスについて
①ブレンド泡盛
・ブレンド泡盛の販売方法としては、自分でブレンドする体験を含めて提供する方針に固まった。３村の泡盛を一つのパッケージとして販売する方向性で検討を進めている。
・伊平屋酒造は、内部的な事情により直接販売してもらうことが困難なため、運天港の売店に卸しているものを提供してもらう考えである。（以上、又吉事務局長）

＜パッケージ案について＞
・１つ目はシンプルなデザインとした。２つ目はブレンドした際のまろやかさや、女性にも手にとってもらいやすい優しいトーンのデザインを作成した。
・パッケージにはブレンドしていることが分かるように記載が必要だと考えている。例えば、「お好みでブレンドしてください」「ブレンドカップ付き」など。
・箱の形としては１つ目は、立方形の窓がある定番の形を考えた。２つ目は３村をイメージさせる三角柱の箱とした。三角柱の箱は販売スペースをとってしまうので、空港などでは幅をとるが、３村でスペースをとって売り場を特設するのであれば、差別化が図れる。
・箱のコストは２つであまり差はない。
・瓶のサイズはブレンドして楽しめるように、一合 180ml を想定している。（以上、吉崎氏）

＜コンセプト、キャッチフレーズ＞
・ブレンド泡盛に込めた想いや、飲み方・楽しみ方を伝える内容とした。ブレンド比率による違いを分かりやすく解説した。
・リーフレットとして箱に入れたり、販売スペースのポップ作成の参考にしてもらえればと思う。（以上、吉崎氏）
※別紙参照

・県外の方に向けて島の名前にふりがなを振ったほうが良いと思う。
・また、県外の都会向けのメッセージに感じるが、ターゲットについては皆さんへ確認したい。（以上、叶観光コーディネーター）
・デザインを作成するにあたり、“３村の想い”に基づいて作成したのか手順を確認したい。３村が自ら作り上げたというプロセスが重要であると考えている。（大嶺班長）
・前回の勉強会において、皆さんと試飲した際に、泡盛に３村の特徴が表れていて、飲み比べるも楽しいし、自分好みでブレンドできるように売ろうという方針を共有した。
・色合いやデザインについては詳細を詰める時間がなかったので、この会議の場で皆さんの意見をいただいて作り上げていきたいと考えている。（以上、又吉事務局長）
・ブレンドして楽しむときに用意するものが多く、スマートではない印象がある。ブレンドして楽しむ場面やターゲットを明確にしてほしい。試飲用の小さなブレンドの見本が入っていると良いような感じがした。ただし、コストがかかってしまう懸念はある。（大嶺班長）
・ブレンドしたものを販売する場合、各酒造よりタンクから提供いただく必要が発生する。伊平屋酒造さんのご協力が得られずブレンドしたものを販売するのが困難な状況である。（又吉事務局長）
・各酒造ともに同じサイズの泡盛があるのか。（大嶺班長）
・一合のずつの瓶がある。ただし、蓋の素材は確認が必要である。（吉崎氏）

・皆さんが誰をターゲットに提供したいかという思いを反映してパッケージなどは再検討できればと思う。（吉崎氏）
・従来の泡盛では海などをモチーフにしたものが多いので、かわいらしいデザインは珍しくて良い。（東江課長補佐）
・県内向けのコメントも含めて検討できればと思う。（名嘉主事）
・県外にメインターゲットを置きつつ、県内も意識した方が良さそうだ。（事務局）
・泡盛の楽しみ方について県内向きの紹介も入れた方が良いだろう。
・また、テーブルの上にセットした写真を掲載すると、飲み方・準備するもの・スペースが一目でわかっていいのではないか。（以上、又吉事務局長）
・ブレンドして飲むのは、若い女性よりも男性やお酒通の人ではないか。ターゲットもそうなのではないか。（金城事務局長）
・一本一本の泡盛の楽しみについてもコメントがある方が良いか。（事務局）
・やはりターゲットが一番気になった。他の商品開発に際しても、まずは県内向けから PR していくことが多い。３村への訪問者は県内の人が多く、県内をターゲットにしたところから始めた方

が良いと思う。（前里主事補）

- まず、ブレンド泡盛を販売できる場所はどこになるだろうか。（事務局）
- ターミナルや道の駅など、観光客が来る場所を想定している。（叶観光コーディネーター）
- 今帰仁村は、今帰仁城址や古宇利島となると、地元の人はあまり訪れない。（又吉事務局長）

- 県外から火がついて、県内で再発見されるということも考えられる。
- また、まったく別のターゲットをごちゃごちゃに検討してしまっている印象がある。（以上、叶観光コーディネーター）
- 今回はこの会議で皆さんからいただいたアイディアを基に案を絞り、検証で一般の人から評価を得られればと思う。（又吉事務局長）

- 「なぜ３つのお酒をブレンドして楽しむのか」というストーリーを発信したい。ただの利き酒セットではない、今回の事業において３本セットで販売する理由を明確にしたい。“いいな”に込められた想いをコンセプトやデザインへ反映してほしい。
- そういう意味に立ち返ると、いいな３村を訪れた観光客が３村を思い出し懐かしむということがねらいにあるのではないか。（以上、大嶺班長）
- ただ単に県外をターゲットにするわけではないということか。（吉崎氏）
- 他の離島でもなく、いいな３村を訪れた人をターゲットにする。（大嶺班長）
- いいな３村を訪れた人をターゲットにすることで、目的にも合致しそうだ。県内外からいいな３村を訪れた人の思い出に、いいなの良さをお酒に込めて代弁するようなイメージ。（事務局）
- 「八つの島の黒糖」がコンセプトとして近いのではないか。島(工場)によって味が異なることに気が付き、それぞれの黒糖のパッケージにその島の特徴のイラストを掲載して、島それぞれの味わいを出している。
- たとえば、色合いに３村の特徴を出して３村らしさを表現してみる方法も考えられる。（以上、大嶺）

- 女性のお酒の楽しみ方をお聞きしたい。（又吉事務局長）
- いいなに訪れた人をターゲットにするのであれば、ターゲット層は広がるので、飲み方によるターゲットの違いは気にしなくても良いのではないか。（金城事務局長）
- 以前に検討したターゲットでは、「家族」をテーマにしたと思う。民泊もターゲットは家族である。そこはぶれない方がいいのではないか。（前里主事補）
- 当初、家族をテーマに考えてみたが、泡盛(お酒)だと、子どもを含める家族をテーマにすることが難しいと感じている。（又吉事務局長）
- 家族が集まって輪になるきっかけを作れたらよいのではないか。家族でいいなの思い出を語り合うなど。沖縄県では、団欒の席にお酒があることも多々ある。（大嶺班長）
- お酒をブレンドする席はお互いの想いを共有する場面ではないか。夫婦で、家族で泡盛の好みや思いを共有する場面と考えてみたらよさそうだ。そのようなイメージも発信したい。（事務局）
- ３村の泡盛を手に取ってもらった人にも「このご縁が続きますように」という思いが伝わると良

い。（叶観光コーディネーター）
- かわいいパッケージは家庭の台所にある景色が想像できる。おしゃれな感じが、手に取ってもらいやすいと感じる。（事務局）

- 植物を入れるのであれば、伊平屋村のクバ(ビロウ)や村花のツツジを載せるなど、３村らしいイラストを入れてみてはどうか。（叶観光コーディネーター）
- 家族のイラストを入れてみてはどうか。家族のお祝いごとにも泡盛は欠かせない。（金城事務局長）
- 伊是名村の村花はサンコバァナ（トウサツキ）。岩場に咲くあざやかできれいな花である。（東江課長補佐）
- 今帰仁村はハイビスカスである。（又吉事務局長）

- ３村を象徴する色はどのような色か？（事務局）
- 伊平屋村は緑だと思う。（叶観光コーディネーター、前里主事補）
- 伊是名村の村花は濃い赤である。（東江課長補佐）
- 今帰仁村観光協会は藍色を用いている。（又吉事務局長）
- ３村の色のバランスも良い。（事務局）
- これらの色を村花と島の色に反映してもきれいだと思う。（吉崎氏）

- 「いいな」の想いが分かること、手に取った方との繋がりが伝わるコンセプトを、パッケージに掲載して欲しい。（大島）
- ブレンド比率を「お父さん割」とかネーミングしても面白いのではないか。（又吉事務局長）
- 島の方言で家族は何と呼ぶのか。（吉崎氏）
- 方言でお父さん「すー」、お母さん「あんまー」、お姉さん「ねーねー」（「しじゃうない」）、妹「うとぅうない」、お兄さん「にーにー」（「にーせー」）と呼ぶ。（全員）
- もとの３村のお酒の紹介をいれてはどうか。（事務局）
- 各酒造の紹介を利用したい。（吉崎氏）
- 伊平屋酒造にも念のため確認したい。（又吉事務局長）

- 箱の形は持ち帰ることを考えると、立方体が適切だろう。（崎間主任技師）
- 三角柱は小窓がなく中が見えない。（東江課長補佐）
- 持ち歩きや強度を考えると、三角柱は難しそうだ。（吉崎氏）

- 折り目を入れて組み替えると家の形になるというのもおもしろい。（大嶺班長）
- コストがかかりそうだ。（又吉事務局長）
- 価格はどのように設定しているのか。（大嶺班長）
- 一つ 1,500 円程度を想定しているが、最終的にはロットの問題。今後の体制を整えてから、生産量と販売価格を詰められればと思う。（又吉事務局長）

・花のデザインをベースに、３村の色や花を使用して、家族・家を連想させるようなデザインとしたい。また、３村の想い・家族・手に取った人との繋がりを意識したい。楽しみ方については県内向けとして削除する。また、「すー割」「あんまー割」などおすすめのブレンド比率も付けたい。（吉崎氏）
・伊是名村の泡盛の名称は「常磐」ではなく、「常盤」である。（東江課長補佐）
・いいな３村の並びについてはどのようにするか。（又吉事務局長）
・北から、「伊平屋村・伊是名村・今帰仁村」としてはどうか。（東江課長補佐）

＜検証＞
・今回の意見を反映したパッケージを花食（２月６・７日）のタイミングに合わせるのはスケジュールとして困難である。（又吉事務局長）
・２月１２～１４日に開催される「伊是名村 物産・観光と芸能フェア」ではどうか？（事務局）
・スペースを設けることは問題ないだろう。（東江課長補佐）
・伊是名村に訪れたことがある人たちや、関心がある人たちが訪れるので、反応も良さそうである。
・「伊是名村 物産・観光と芸能フェア」に照準を当てて進めたい。（以上、又吉事務局長）

②いいなおむすび
＜パッケージ＞
・１つ目はシーサーを用いて沖縄らしいデザインとした。２つ目は沖縄の着物の柄を用いた温かみのあるデザインとした。
・温かみを感じる段ボールの箱を想定している。また、お米についてはおむすびを連想させる三角形の容器に１合ずつ入れることとした。油味噌についてはそーれで使用している瓶でかわいらしく付け合わせる。
・段ボールの茶色地にそのまま印刷することもできるが、泡盛を合わせて白塗にプリントする形式をとりたい。（以上、吉崎）
・泡盛のパッケージの案と同様に、シリーズものらしくなるようにしたい考えである。（又吉事務局長）

・「尚円の里」として販売しているお米を、このようなパッケージで販売しても良いか。契約農家等についてはどのように検討しているか。（大嶺班長）
・JA へ確認したい。（東江課長補佐）
・今帰仁村の油味噌は「そーれ」で創ったものを瓶詰する考えである。（又吉事務局長）
・どのようにオペレーションをとるのか、ハードルが高いと感じる。（叶観光コーディネーター）
・オペレーションと表示方法について、各村に確認いただきたい。（事務局）

・今年度はマーケットリサーチを実施するところまでを行いたい。（又吉事務局長）
・商品表示やオペレーション等を含めた販売までの課題抽出を行ってはどうか。（大嶺班長）
・サンプルを見せながら、JA や関係者と協議できればと考えている。（又吉事務局長）

③ロゴ案について

・今後の展開も見通して、ロゴについても検討した。デザイナーへ依頼し、３村の絆を連想した３案考案した。

・１つ目は太陽と３村をイメージした、最も使用しやすいタイプのロゴである。２つ目は３村の形が入ったかわいらしく女性うけ受けするデザインとした。ただし、パッケージに使用すると小さくなってしまう。３つ目は３色で３村を示し、フェリーでつながるということで波を描いたデザインである。（以上、吉崎氏）

・３村を三角に配置するなど、位置付けを工夫してもらえると良い。（叶観光コーディネーター）

・みなさんから色について意見もあったので、３村のそれぞれの色を活かす方法もある。

・今回の提案は商品から入ったご提案だったが、この会議でいいな３村の取組のコンセプトを共有することができた。（以上、又吉事務局長）

・３村の「地理的な位置づけ」や「なぜ３村が連携しているのか」という点も、ロゴやパッケージにも示してほしい。（叶観光コーディネーター）

・コピーライターとも共有して、それらを含めて検討してもらう。（吉崎氏）

（２）モニターツアーについて

・今後、詳細な実施方法について検討を詰めていきたい。例えば「家族の話」の仕方など受け入れ民家からも意見をもらっている。

・また、旅行商品としての付加価値がどれくらいあるのかというところも懸念している。

・一方で、実施までの限られた期間で３村でのツアーの検討を深めることに苦慮している。（以上、又吉事務局長）

＜ツアー内容＞

・小学生の民泊では一緒に夕飯を作って食べているが、家族の民泊ということで宿泊するお父さん・お母さんも一緒に夕食づくりを体験し、おむすびを一緒に作るということを実践できればと考えている。

・体験プログラムについては、２月に実施できる体験プログラムとして玉ねぎ収穫体験を提案した。喜納小学校が植えた玉ねぎを引きぬく作業を家族で実施し、採れた玉ねぎをお昼ごはんに食べるというプランも考えられる。

・家族の学校ということであれば、「家族でおむすびをつくってピクニック」ということでプランは検討できる。２日目の体験プログラムがお弁当作りになる。（以上、金城事務局長）

・今帰仁村の体験の時間については、「今帰仁ウカミ」を題材に家族の話をガイドの方から話してもらうことで家族の学校の導入部分にできると考えている。

・また、家族の話については実際には受け入れ家庭にとってハードルが高い。家族の絆を深めるし

クリエーションゲームを作って実施する方法を提案されたが、いかがだろうか。（以上、又吉事務局長）
・提案してもらった方法はセミナーのような雰囲気を感じてしまう。普段の生活の中から絆を感じる流れが理想である。例えば、島に“家族”に関する歴史などがあれば、そこを入り口に家族の話ができないか。
・また、「家族のことを考えろ！」と参加者がプレッシャーを感じてしまう恐れがある。（以上、大嶺班長）
・伊平屋村では今でも実際に地元の文化や歴史について話をしたり、夕食の後に昔の話をしてコミュニケーションをとっている。現状でも、受け入れ家族に任せており、家族の学校についても普段の民泊と同様に実施しても良いのかと感じる。（金城事務局長）
・受け入れ家庭として、２世帯家族などより家族の温かさが感じられる家族（構成）を選ぶなどの工夫をしてもらいたい。（大嶺班長）

・必ず実施する体験としては、おむすび作りを入れることでよいか。（叶観光コーディネーター）
・おむすび作りを必須として入れることとしたい。伊平屋村については金城さん・西銘さんで検討いただき、伊是名村については考え方をまず上間さんへ共有いただき、検討をつめてほしい。（事務局）
・詰め込みすぎずに、素朴なプログラム内容で検討するということで良いか。（又吉事務局長）
・基本的には良い。出来れば、作業が家族で連動するような内容でプログラムを組んでほしい。（大嶺班長）

＜参加者について＞
・モニターツアー参加者については、民泊受入団体のほかにメディアの方の参加も検討している。（事務局）
・いいな３村の取り組みの発信を行ってもらえると嬉しい。（又吉事務局長）
・子供の年齢制限はあるのか。幼児だと夜のプログラムの実施が難しい。（叶観光コーディネーター）
・未就学児は対象から外すことにしたい。大人家族もターゲットに入れてはどうか。（又吉事務局長）
・小学生以上としてはどうか。（金城事務局長）

＜日程調整＞
・２月１３～１４日に伊平屋村では村の行事があるが、家族をその祭りに連れて行くのも可能である。（金城事務局長）
・モニターツアー実施日を伊平屋村は２月１３～１４日、伊是名村は２月２０～２１日としたい。
・モニターツアーの実施に際して両村へ通信員に来てもらう。（以上、事務局）

（３）連携組織の立ち上げについて
・各村の主体が集まって協議し、村としての意見をまとめてほしい。（事務局）

・今帰仁村役場へ参加するよう、県よりプレッシャーをかけてほしい。（又吉事務局長）

（４）今後の予定について
次回会議日程は３月７、８日を軸に調整する。

第３回
いいな３村調整会議
議事録

平成２７年度 農山漁村交流拠点整備事業
いいな３村 第３回調整会議 議事要旨

１．日　時：平成２８年３月８日（火）　９：００～１２：００
２．会　場：今帰仁村　あいあいファーム（セミナールーム）
３．出席者：
＜グリーン・ツーリズム推進団体＞
・伊平屋村 総合推進室　叶 観光コーディネーター
　　農林水産課　前里主事補、宮城氏
・伊平屋島観光協会　西銘主任
・伊是名村　農林水産課　名嘉主事
・一般社団法人いぜな島観光協会　上間事務局長、前田氏
・一般社団法人今帰仁村観光協会　又吉事務局長
＜沖縄県＞
・沖縄県 農林水産部 村づくり計画課　大嶺班長、崎間主任技師、金城氏
＜受託事業者＞
・株式会社オリエンタルコンサルタンツ　小川、大城
・株式会社アンカーリングジャパン　中村、大島

４．議事要旨
（１）コミュニティビジネスについて
①実証調査結果について
・お客さんの感触はとても良かった。デザインも好評だった。
・ブレンド泡盛について、実感としては「重い」。伊平屋酒造所の照島の最も小さいサイズが 600ml で、これにサイズを合わせたが「大きすぎる」という声が多かった。伊平屋酒造さんに小さいボトルを作ってもらう必要があるが交渉できるか懸念事項である
・おむすびについては、今までに同様の商品がなく販売するためにはまだまだブラッシュアップが必要だと考えている。また、外観のパッケージから中身が何なのか分かりにくい。（以上、又吉事務局長）
・アンケートにもあったが、一合だけでは物足りないという声もあった。（上間事務局長）
・今後の各メーカとの調整次第では、ブレンドしたボトルを販売することも可能か。（大嶺班長）
・伊平屋酒造所次第である。今帰仁酒造・伊是名酒造所では了承いただいている。伊平屋酒造所から酒造タンクを送ってもらうことが可能であれば３村のブレンド泡盛の販売も可能である。（又吉事務局長）
・もう一度、伊平屋酒造所と話をしてもよいか。小さいボトルの製造と酒造タンクのやり取りについて交渉したい。（叶観光コーディネーター）
・お土産とギフトの違いが面白いと感じた。「ギフト」として家族や自分のために買う購入することも出来るし、祝い酒など“結び付き”をテーマとした贈り物としても広がりが生まれる。パッ

ケージの絵柄も合っている。（中村）
- ３村の結びつきというコンセプトを活かして、縁起物(ギフト)として贈ることも考えられる。（小川）
- さらにブレンド泡盛を居酒屋で飲めると良い。そこから評判が広がったり、例えば、北山食堂さんなどの居酒屋で地元の雰囲気やコンセプトも共有できるのではないか。（中村）

②いいな民泊おむすびの手引き
- おむすびの手引きの「～美味しい作り方～」のページに、(衛生面の視点から)お米の温度によっておむすびを作ってから食べるまでの時間制限を記載したい。
- 写真も入れられればと考えている。デザイン的な部分はもう少し詰めたい。（以上、又吉事務局長）

- 沖縄で“あんだーすーおにぎり”作って食べている文化を伝えたい。手引きに載せるおむすびの作り方は“あんだーすーおにぎり”の作り方が良いのではないか。共感してもらって、おみやげにおむすびのセットを買ってもらってはどうか。（大嶺班長）
- コメントに３村としての取組を補強するなど、掲載内容は少々検討したい。（小川）
- おむすびづくりの位置づけが、体験プログラムのどこの部分なのかが大切だと考える。例えば、家族の愛情や島の文化に触れることなのか、一緒に作業をやることなのか、未知のことに触れることなのか。さらに食育的な要素もあると思う。このおむすびづくりを重要なコンテンツに位置付けるならば、どういう学びや意図があるのか、どのような“気づき”を感じてほしいのか、裏のメッセージを参加者から引き出すような仕組みが必要である。ターゲットとシチュエーションを具体的にし、おむすびがもたらす効果を明確にしたい。（中村）
- わたし自身がこのプログラムを提供するなら、「このおむすびのお米がもともとどういう姿をしていたのかな」「誰かが手をかけて作っていて、その際に誰かを想って作ったのかな」と考える機会にしたい。おむすびを作るタイミングは少し一息ついて時間がとれるお昼ごはんの前に。（叶観光コーディネーター）
- わたしは自然を感じ取れる風景を感じながら、おむすびをつくったり・食べたりすることをイメージしている。（大嶺班長）
- ３村が連携してこのような共通の体験が実施できれば、「いいな３村のコンテンツがおもしろいよ」と評判が広がる。また、民家さんにも楽しんでもらうことで、その次の新たな取組につながると感じている。
- おむすび作りの精度が高まれば体験プログラムとしてもいけるのではないか。（以上、中村）
- おむすび作りの体験が出来るというのもインパクトが強いと思うが、体験プログラムとなるとハードルが高いように感じる。
- 民泊の一環としてあまり縛り過ぎず各家庭のやり方に任せて、話す内容やシチュエーションなど発想を自由に膨らませてあげると３村独自の取組になりおもしろいのではないか。（以上、又吉事務局長）
- コンセプトに基づいてそれぞれのやり方で実施し、その取組を発表会等で共有することで、さらにこの取組を育てていくというのも一つの方法である。

・体験の中におけるおむすび作りの位置づけを明確にし、手引きの中身をブラッシュアップする。（以上、小川）

（２）連携のあり方ににについて

・伊平屋村の提案にあった「各村に担当を設ける」という考え方が良い。いちゃり場祭りについては担当がいて、各村長も認識している。今帰仁村はいちゃり場祭りをベースに考えたが、伊平屋村のアイディアをベースに検討できればと思う。
・今後の取組が進展した際に収益が出た場合のことを考えると、行政と民間の分けで悩んだ。（以上、又吉事務局長）
・収益を得て回せるようになれば、民間の団体を設立・独立させるイメージか。（小川）
・そうである。そこまでたどり着けば組織を設立する考えもある。（又吉事務局長）
・やんばる３村の取組として事例を紹介すると、収益も含めて事業部的な話も課題として挙がってきている。連携組織が発足し３村の団体(民間)が事務局を担って取組を進めているが、協議会の運営は行政の連携が必要不可欠である。
・一方で、３村の各地域内においては行政(村役場)がキーマンになるが、広域的な取組になると各地域の接着剤的な世役割を果たす県のような組織も必要になる。バランスをどのようにとるのかが重要となる。
・今年度は今帰仁村観光協会を中心に取組を進めてもらったが、行政の協力が得られないことには又吉事務局長も動きづらかったと思う。今後は事務局と実際の取組とテーマを分けて話し合う必要がある。（以上、大嶺班長）
・様々な事業と並行しながら、いいな３村の取組も行っている。一か所でまとめて実施できる体制があると良い。（又吉事務局長）
・民家さんに対しても定期的な合同の研修会を行い、事務局以外の民家も含めた連携体制をつくってほしい。いいな３村の本筋が整理できると、対外的にもブランド力がついてくるのではないか。（大嶺班長）
・まずは行政軸での連携体制を整え、次に民間軸での連携を進めていく方向性が見えてきた。（小川）
・担当者を決めて協議会を組織し、定例会を行う。そして、取組ごとに民泊部会やマーケティング部会、イベント部会、商品開発部会、ふるさと納税部会と分けると動きやすくなりそうだ。（又吉事務局長）
・事務部隊を分けることで、事業(実働)部隊が動きやすくなる。今は行政が事務部隊となり、思いきって役割を資本投資に絞り込み、事業部を切り分けてはどうかと考えている。
・行政を通じた認証(お墨付き)を与えることで、事業部隊(観光協会)によるいいな３村の活動を促進できる。（以上、大嶺班長）
・本事業を通じて検討した実施体制を、各村の行政に働きかけても良いか。（又吉事務局長）
・良い。今年度に実施するのは困難だが、３村長に体系化した組織案をプレゼンするキャラバンが実施できれば理想的であった。（大嶺班長）
・体制としては、各村役場に担当者を置き、この担当者が行政的なポストになって広域的な繋がり

を担保し、事業的な面は各村の観光協会が担う。

- ただし、各観光協会においてすでに進めている取組もあるため、連携のコンセプトに基づいた内容は並行して取り組んでいくことになる。（以上、中村）
- まず、仕事の整理と体系化が必要である。これらの動きについて、行政としてどれくらいのスピード感で進めることが可能か。（小川）
- 頑張れば４月中には村役場に担当者を置くことができる。（叶観光コーディネーター）
- ４月中を目途にコンセプトや背景を整理し体制などを含めて提言書をまとめ、各村に提示することとしたい。（中村）

- 事業側のポストは、今帰仁村観光協会で良いか。効率面のほかに実質的にも可能だろうか。作業ごとに切り分けることも考えられる。（小川）
- 総合的には担うことが出来る。具体の事業については内容ごとに部会をつくり、分担できればと考えている。（又吉事務局長）
- 仕事の体系化を進める中で分担できるものを整理したい。（小川）
- 財源面の課題が解決できれば良い。いちゃり場祭りも現在各村の持ち出しで成り立っている。年度明けに地域創生の事業へ申請できればと考えている。（又吉事務局長）

- 民泊の一本化は可能か。（大嶺班長）
- やろうと思えば可能である。全国旅行組合へ加盟することでエージェントを介さずに斡旋を行う方法があるが、100 万円程度の費用を要する。これを３村で折半することを提案したい。（上間事務局長）
- 修学旅行の民泊と大人の民泊がある。修旅の民泊については取れない(旅行会社には勝てない)と考えている。大人の民泊はエージェントを介する必要性がなく、パッケージも作れるようになるため、旅行業を取得しても良いかと考えている。（又吉事務局長）
- 小値賀のように、“いいなアイランドツーリズム” のような株式会社をおこして旅行業を取得し、そこをプラットホームにしていいな３村のとしてのコーディネートを行う。得た収益は出資している組織が利益として確保するというような仕組みがある。
- 実施する場合には、３村の観光協会が出資し合って設立し、そこに補助金を入れたり持ち出しの部分を役場が負担するなど、行政が取組を担保する方法がある。その際には DMO 事業の立ち上げの可能性もある。（中村）
- 海外では DMC というカンパニーの方法をとっている。（又吉事務局長）
- 伊平屋・伊是名の２村の観光協会が特にこのような動きをとるべきではないかと思う。今帰仁村は出口に近いところにあり、様々なリソースも持っている。伊平屋・伊是名の２村は今帰仁村に対してもっとアプローチをしても良いのではないか。上間事務局長の提案は積極的で良いと思う。（中村）
- ツーリズムに対する客のニーズが変化する中で、絶えず情報発信が必要。窓口や拠点という視点からはやはり今帰仁村が果たす役割が重要となってくるが、それぞれの魅力を発信していく点については伊平屋・伊是名の２村からのコンテンツの提供が必要になってくる。（小川）
- まずは２村からスタートしても良い。公益性の担保は必要だが、やれる所から取り掛かっても良

い。

・地域を応援したい企業がいて、すでに連携しているところもあると思う。このような会議の場に出席してもらい、3 村で取組を共有してはどうか。それぞれが実施している取組に他村を引き込むことも考えられる。（以上、中村）

・フェリーが欠航した際の今帰仁村におけるフォローは可能か。（大嶺班長）

・受入家庭数をもとに考えると、今帰仁村よりも受入家庭数が少ない伊平屋村については可能だが、今帰仁村より多い伊是名村については困難だと考える。（又吉事務局長）

・伊是名村では平均的に 250～260 人の受入をしている。突然の天候悪化の際に補完する制度は今のところない状況である。（上間事務局長）

・人数的には困難だが、事前にいつ受入をしているか把握できれば可能性はある。また、健堅さんと観光協会とで調整できれば本部町等の周辺市町との連携によるフォローも出来るだろう。（又吉事務局長）

・もしもの場合には、やんばる 3 村との連携も考えられる。ライバルとして切磋琢磨し、ブッシュアップできると良い。（中村）

［今後の方針］

・コミュニティビジネスについては継続して詳細を詰めていく。いいなおむすびについては民泊での位置づけも含めて検討する。

・連携のあり方についてはまず行政を軸に基盤をつくることとし、5月中を目途に担当者を検討・確定してもらう。事務局のほうでも組織体系を整理し提言資料でも使えるように準備したい。

・また、民間側の現状の動き(交流体験プログラム、コミュニティビジネス)を踏まえて、今後何に取り組んでいくべきか整理したい。

（以上）